

## メシア＝キリストの選びと棄却

### 詩編 89:1－9

詩編 89 編は詩編第二部の最後に位置しており、90 編は葬儀の際に読まれるモーセの歌が登場する。89 編は 53 節まであり長い。先ず、全体を読んでみよう。できたら朗読してみよう。

受難週には 89 編全体を読みたい。この詩編編は結論的には選ばれ立てられたメシアが辱められ、棄てられたこと（選ばれた者の棄却の悲劇 50－52 節）を歌っているの、伝統的には、洗足木曜日の聖書日課として読まれてきた。この詩は 1～19 節、20～38 節、39～53 節に区分されるが、原典で扱うには長すぎる。そこで、便宜的に 9 節で切る。それゆえ、心にメシアの辱めの場面を刻みながら 9 節までを味わってみよう。

この場面では地上で統治する僕ダビデと天上で賛美を捧げる「聖なる集会（会議）」の対比・関係が描かれている。序曲（2～3 節）

2～5 節はこの詩の序曲のような部分で、主なる神が選んで立てたダビデとの契約が想起されている。主に油注がれた理想の王である。

詩は「私は歌う」で始まる。内容は、とこしえに、ヤハウエの慈しみ（ヘセド）と、あらゆる世代にわたって、あなた（主）のまこと（アーメン、信実）とを私の口で、知らしめることである。

そして、私は「言う」と続く。もろもろの天で「慈しみ」（ヘセド）が確立されるであろう！と。あなたはあなたの信実（アーメン）において確立するであろうと！

#### 1. ダビデとの契約（4～5 節）

次に、主なる神が「選ばれたもの」との契約を締結したことに言及する。神は「わたしの僕ダビデ」に対して誓われたと言う。その誓いの内容は、5 節に歌われている。「あなた（ダビデ）の子孫をとこしえに確立するであろうと。そして「あらゆる世代にわたってあなたの王座を確立するであろう。」と。

#### 2. 諸々の天と聖徒たちの集いの神賛美（6 節）

2～3 節は詩人が主語であり、礼拝司式者が語る。4～5 節は主なる神の言葉であり、その神の語りかけに対して、6 節からはもろもろの天と神の会衆の賛美が始まる。まず、「もろもろの天」が「主（ヤハウエ）よ、あなたの奇跡的諸力をほめたたえるでしょうと歌っている。また、「聖なるものの集会」（ここでは天上の会衆なのか？ いや天のコーラ

スと地上の合唱が呼応していると見るべきであろうか?) のただ中においてあなたの信実 (アーメン) をほめたたえるでしょう。」

### 3. 最上級の神賛美 (7 節)

だれが諸々の天において (雲の上?) ヤハウエに比べることができようか! 「神々=力強き方? の息子ら」の間で、だれかヤハウエに似ているようなものがありえようか! 主なる神はまさに神々の中の神、主であられる!

### 4. 恐れ敬われる神 (8 節)

最上級の神賛美はさらに続き、恐れと敬いに加わる。主なる神エルは「聖なるものの集い」において畏れられるべきものである。(そして) 彼 (神) の回りのあらゆるものによって「大いなる尊敬」が払われるべきものである。主なる神は義をもって審かれる。

### 5. 比類なき神の威力と真実 (9 節)

「万軍の神、主」(yahweh 'ēlohē sēbā'ōwt) よ、だれがあなたのように力強きお方であろうか (hāsīm YAH)。「あなたの信実 (アーメン) はあなたの回りを取り囲む。」

主なる神においては、威力と信実が一つになっている。そしてそれらは「慈しみ」(恩寵) によって結ばれている。信実なき威力はしばし暴走し、力なき真実は結局ことをなさず、空疎に流れるのである! 十字架で殺されたイエスは死者の中から引き上げられた主であり、復活のイエスは十字架につけられたキリストである。これが世界史を巻き込む歴史の真実である。

イースターを迎える心の準備をしよう。